

令和6年2月28日(水)

敬天愛人（けいてんあいじん）

郷土の偉人西郷隆盛さんが好んで使われた言葉に「敬天愛人」があります。西郷どんが残した遺訓集『南洲翁遺訓』（なんしゅうおういくん）には、

「道は天地自然の物にして 人はこれを 行うものなれば 天を敬するを目的とす 天は我も同一に愛し給ふゆえ 我を愛する心を以て 人を愛する也」

の一節があります。

現代の言葉に直してみると、「道というのはこの天地のおのずからなるものであり、人はこれにのっとって行うべきものであるから何よりもまず、天を敬うことを目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛したもうから、自分を愛する心をもって人を愛することが肝要である」という意味です。

また、『南洲翁遺訓』41条追加2条には、以下のような文章があります。

「道は天地自然の道なるゆえ、講学の道は敬天愛人を目的とし、身を修するに克己をもって終始せよ」

これは、「道は天地とともに自然に備わった道なのですから、学問の道は「敬天愛人」を目的として、終始一貫して自分に克つように努めなくてはいけない」という意味です。

つまり学問を通して何かを学ぶことの最終的な目的には「敬天愛人」という考え方があり、そのためには「この世のすべての事象を尊いものとして賛美し敬うと同時に、人に対しても慈愛をもって接することだ」と説いているのです。

このことから、「敬天愛人」という言葉を大切にした西郷どんの人となりを感じます。西郷どんは「敬天愛人」を学問の最終的な目的として使っていました。西郷どんは、学問とは何かを学ぶことが目的ではなく自己修養の目標だとした考え方の持ち主でした。

京セラ創業者の稲盛和夫さんは、「全従業員の物心両面の幸福を追求する」ことを企業の目的としていらっしゃいました。これは、西郷が説く「敬天愛人」の「愛人」です。西郷どんの考え方は、現代の企業や学校などでも通用しています。